

なら 賑わい通信

発行：奈良市中心市街地活性化協議会事務局
〒630-8586 奈良市登大路町 36-2
(奈良商工会議所内)
TEL：0742-26-1666
E-mail：narachukatsujimu01@yahoo.co.jp
URL：http://www.nara-cci.or.jp/chukatsu/
発行日：2008年7月10日 第7号

活性化事業の民間第1号として、 食品スーパーが8日にオープン！

今月8日に奈良もちいどの商店街中央部において(株)桶谷が食品系スーパー「フレッシュマート オークスト」を開業し、この日の午前10時から奈良市長、近畿経済産業局および活性化協議会会長を初め、多くの関係者の出席のもと盛大にオープニングセレモニーが行われました。

この食品スーパーは、奈良市中心市街地活性化基本計画事業の第1号で、テナントミックス事業として約1年の構想・計画を経て、また国の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助を受け整備されたものです。

1階を幅広い食料品を取りそろえたスーパーマーケットと広場、2階を飲食店テナント及びコミュニティスペースとなっており、地域に密着した店舗として近隣のみならず、広域からの来街者の増加をも予想され地域の活性化につながる店舗として期待されています。

中心市街地では、ここ近年 JR 奈良駅前の大型店撤退、飲食店等への変更や空き店舗発生により食料品・生活雑貨等を扱う店が不足し、日常生活に不便を生じているといった地域住民の声に答えるものです。特に、「24時間テレビ 愛は地球を救う」の奈良会場として市民に親しまれている店舗前広場を活用して、継続的に商店街と連携を図ったイベントの開催も計画されています。また2階コミュニティスペース等を地域住民や観光客に開放し、もちいどの商店街中心部の新しい顔として、中心市街地の集客と賑わいの向上を目指すものであり、今回の活性化事業によって、これまで以上に中心市街地商店街の顔として認知されることと期待しております。



オープニングセレモニーでの鏡割り

【フレッシュマート オークスト 構成】

- 1階 スーパーマーケット面積 約1,010㎡
(・一般食料品 ・酒類 ・青果 ・精肉
・鮮魚 ・惣菜 ・ベーカリー
・100円均一 ・生花)
他に約260㎡の(仮称)OK広場)
- 2階 専門店等で面積 約830㎡
(・コミュニティスペース ・焼肉
・スナック ・カフェ/イタリアン
・バー/カラオケ ・寿司/居酒屋
・レストラン ・ラーメン ・外人バー
・ステーキハウス)



店内・生鮮食料品売り場



OK広場からスーパー入口

平成20年度 奈良市中心市街地活性化協議会の事業計画

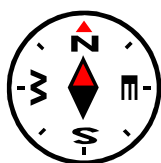
6月24日、商工会議所中ホールにおいて今年度2回目となる「第5回活性化協議会」を開催し、同5日の運営委員会を経て提出された平成19年度の事業・決算報告及び平成20年度の事業計画(案)同予算(案)を審議し、いずれも原案通り承認されました。

本協議会では、今年度も引き続き奈良市と連携を図りながら、国際文化観光集客都市奈良の顔である中心市街地の活性化に向けて、都市機能の増進及び経済活力の向上を目指し様々な事業に取り組んでまいります。

平成20年度の全体予算は12,734千円です。以下、主な事業計画について紹介します。

1. 活性化対策振興事業

● 中心市街地活性化マップ作成



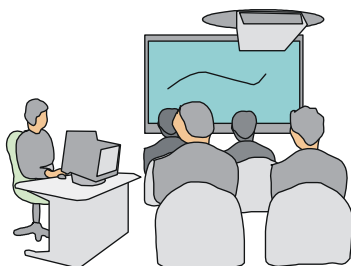
中心市街地の魅力を再発見していただくための情報発信手段として、これまでのような観光マップとは違った特色のあるマップを作成する。広く観光客や市民を中心に商店街や観光資源および文化施設などを紹介し、まち歩きを楽しんでいただくというものです。中心市街地活性化協議会では、商店街や駅構内、また旅館やホテルなど、また観光施設などに広く配布したいと考えております。

● まちづくり啓発パンフレット作成

奈良市中心市街地活性化基本計画が本年3月12日付けで国の認定を受けました。この事業は、奈良市の基本計画をわかり易くまとめ、市民や関係者にまちづくりの必要性など広く啓発するためのパンフレットを作成します。

2. コンセンサス形成事業

● 中心市街地活性化シンポジウム開催事業



中心市街地活性化に関しての普及啓蒙活動として、昨年に引き続きシンポジウムの開催を行います。現在のと

ころテーマなどは未定です。詳細が決まれば、又お知らせいたします。

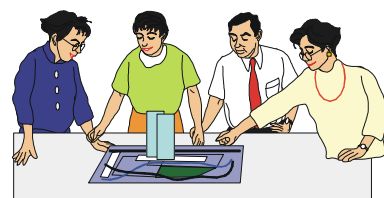
● 中心商店街通行量等調査事業



奈良市中心市街地の通行量の実態を時系列に把握することによって、奈良市中心市街地のまちづくり計画に資することを目的として本年度も昨年に引き続き実施いたします。実施日は8月10日(日)、調査場所は奈良市中心市街地を形成する13ヶ所のポイントで実施いたします。本年度は昨年実施した9ヶ所から新たに三條 JR 奈良駅西(ホテル日航前)・三條通り猿沢池西・ならまち脇戸町・ならまち中院町の4ヶ所を追加いたしました。また今年から駐輪の実態調査も行うこととしています。

● 中心市街地商店街まちづくり推進事業

事業計画の策定に当たっては、時間的な制約上、各商店街がまちづくりに



対しての事業を十分に練ることが出来なかった。又その後の取組みなどから新たな課題や取り組むべき内容が見えて来たなど、状況変化が予測されるので、それらの課題や問題に対して、どのように個別に考えて行くべきか等、いろいろな課題に応じたアドバイザーや専門家を中心市街地活性化協議会から派遣する相談会を企画しました。

● まちづくり懇談会（ワークショップ）事業



まちづくりに関しては、商業者だけでなく、市民をはじめ、企業、団体、NPO などの意見を取り入れた市街地のまちづくりを行うこととなって

いますので、こういった人達が参画する場としての懇談会を企画。奈良のまちづくりを市民レベルで話し合う場を作りたい。いくつかのテーマを設け自分が参画したいテーマの部会に参加していただき課題の共有、今後の奈良のまちづくりについて話し合い、中心市街地の有り方などをまとめ、最終的に各部会で提案書にまとめるという形で運営します。広く開かれた参画の場を設けるため公募による懇談会を実施いたします。多数の商業者の参画も期待しています。



● テナントリーシング研究会開催事業

中心市街地への来街者が増加し賑わいが進みつつある。一方で買物もゆとりと文化の時代を迎え奈良のような都市の魅力度は向上していると思われ、また大型店など、旧来の商業地域や路面店などへ出店の動きも伺えるため、奈良の中心市街地への大型専門店などの出店を視野に入れ対応を図りたいと考えます。そこで、テナント出店の条件整備など具体的なアクションプランを考える研究会を立ち上げ、テナントリーシングの専門家も招聘し、いざという時の為に勉強会を行いながら、ひとつの方向性をまとめて行きたいと考えます。また、その情報を商店街の方へも還元してまいります。



宿泊者数は全国最下位の奈良県

～国土交通省「宿泊旅行統計調査」の結果から その②～

前回に引き続き、国土交通省において初めて実施された宿泊旅行統計調査の一年間の結果について、奈良県の宿泊者の実態について、まちづくりアドバイザーの梅屋則夫さんに取りまとめ、分析いただいた内容をご報告いたします。なお、この調査は国内にある従業者数10人以上のすべての宿泊施設を対象に四半期ごとに宿泊者数を調査したもので、掲載するデータは公表されたデータを加工・分析したものです。

1. 宿泊者数絶対値の低さは、「施設数の不足」、「ビジネス需要の低さ」、「県内容の利用」にある。

今回の全国一斉の宿泊統計を都道府県別にとりまとめたのが、別表（ページ数の関係から、当協議会のホームページ「賑わい通信」に掲載）であり、これらの数値をもとに解析のための図表を作成した。これらの図表をもとに全国最低の宿泊数の要因などを探ってみる。

※ 別表（都道府県別延べ宿泊者数）については、紙面の都合上当協議会のホームページをご覧ください。

<http://www.nara-cci.or.jp/chukatsu/>

※ 「宿泊旅行統計調査」
統計数値は修正済みです

①施設数の絶対的な不足がある。

- 図表 1 は宿泊者数を上位と下位の県別に整理し、図表 2 はこれらの宿泊者数と地域の人口との関係で見たものである。奈良県は人口 100 人当たりで 81.1 人と圧倒的に低い数値であり、全国では埼玉

県の 41.8 人に次いで低い。

人口規模からして低い宿泊者数であり、観光県の性格は別にして他との交流などが著しく阻害されている結果とも受け取れる。いずれにしても観光を標榜している奈良県としては由々しき状態といえる。

図表1 一年間の延べ宿泊者数ランキング

順位と府県名	延べ宿泊者数	県別シェア
1位 東京都	37,183,240	12.02%
2位 北海道	24,922,660	8.06%
3位 大阪府	16,002,890	5.17%
4位 千葉県	14,795,600	4.78%
5位 静岡県	13,424,430	4.34%
6位 沖縄県	11,933,650	3.86%
7位 神奈川県	10,583,010	3.42%
8位 長野県	10,569,930	3.42%
下位		
41位 香川県	2,136,000	0.69%
42位 福井県	1,958,170	0.63%
43位 鳥取県	1,952,330	0.63%
44位 高知県	1,837,280	0.59%
45位 島根県	1,789,930	0.58%
46位 徳島県	1,241,500	0.40%
47位 奈良県	1,152,420	0.37%

図表2 人口100人当たり延べ宿泊者数

順位と府県名	延べ宿泊者数	人口100人当たり宿泊者数
1位 東京都	37,183,240	295.7
2位 北海道	24,922,660	442.9
3位 大阪府	16,002,890	181.5
4位 千葉県	14,795,600	244.3
5位 静岡県	13,424,430	354.0
6位 沖縄県	11,933,650	876.4
7位 神奈川県	10,583,010	120.4
8位 長野県	10,569,930	481.3
下位		
41位 香川県	2,136,000	211.0
42位 福井県	1,958,170	238.3
43位 鳥取県	1,952,330	321.6
44位 高知県	1,837,280	230.7
45位 島根県	1,789,930	241.2
46位 徳島県	1,241,500	153.3
47位 奈良県	1,152,420	81.1

図表3 延べ宿泊者数と施設数および定員との比較

上位	延べ宿泊者数	施設数	全定員数	1施設当たり延べ宿泊者数	人口1万人当たり施設数	人口1万人当たり定員数	1施設当たり定員数
1位 東京都	37,183,240	579	153,422	64,220	0.46	122.0	265
2位 北海道	24,922,660	652	150,399	38,225	1.16	267.2	231
3位 大阪府	16,002,890	233	67,142	68,682	0.26	76.2	288
4位 千葉県	14,795,600	278	72,000	53,222	0.46	118.9	259
5位 静岡県	13,424,430	560	93,825	23,972	1.48	246.0	168
6位 沖縄県	11,933,650	196	55,228	60,886	1.44	406.5	282
7位 神奈川県	10,583,010	309	51,227	34,249	0.35	58.3	166
10位 長野県	10,569,930	514	89,104	20,564	2.34	405.8	173
下位							
41位 香川県	2,136,000	91	15,320	23,473	0.90	151.4	168
42位 福井県	1,958,170	108	14,902	18,131	1.31	181.3	138
43位 鳥取県	1,952,330	88	13,750	22,186	1.45	226.5	156
44位 高知県	1,837,280	103	13,459	17,838	1.29	169.1	131
45位 島根県	1,789,930	114	13,399	15,701	1.54	180.6	118
46位 徳島県	1,241,500	62	7,720	20,024	0.77	95.3	125
47位 奈良県	1,152,420	69	8,510	16,702	0.49	59.9	123

全定員数は定員稼働率から算出

- この要因について施設数の絶対数が不足しているから宿泊者数が少ないとの仮説を立て、データを分析したのが図表 3 である。その結果、
 - ・ 宿泊者数の下位の県を比較しても奈良県の施設数 69、全定員数 8,510 人は異常に低く、施設数、定員数とも徳島県に次ぐ低さである。
 - ・ 1 施設当たり宿泊者数がやや低くなっている。定員数から見る小規模の施設と稼働率の低さが宿泊者の低さにつながっている。
 - ・ 人口当たりで施設数、定員数を見ると大都市をのぞくと当県の低さが際だっており、人口当たり定員数では異常に低いなど、観光県としての施設整備の水準にはない。
- もとより、これらの施設規模の問題は、顧客の利用動態や他地域との競合関係などで決まってくるが、その前提としての施設数や定員数など最低限の条件整備としての課題があることが分かる。